

野尻城跡（宮崎県小林市野尻町東麓）【図 1・2】

小林市野尻町市街地の南方の大地状に立地する。北から東方には城之下川と呼ばれる小河川が流れる。南北 400 m、東西 800 m におよぶ、広大な城域を有する城郭で、「本城」と称される部分と「新城」と称される部分より成る。「本城」部分は図の南東側範囲外にあたる。

南側の「本城」部分は県道が貫いており、東側を中心に破壊が進んでいる。東端部に大きな空堀があり、往来を遮断している。また主たる 2 つの曲輪の間にも大きな空堀が見られ、その北方には岩観音と呼ばれる磨崖仏がある。

北から西側にかけての「新城」部分は、そのさらに西側が一連の台地地形となるため、空堀を設定して防御を固めている。最も北西側には広い平坦地があり『日向地誌』などには「本丸」と記しているが、むしろ居館的な機能を有する場所であったと考えられる。標高は 167 m。その曲輪の中には井戸の跡があり、「野尻城井戸跡」として市指定史跡となっている。

中心に位置する曲輪は前途の箇所の南東側のあり、北西および東側には土塁が現存している。周囲には腰曲輪状の平坦地が巡る。南側の小さな曲輪は櫓台的なものか。

その東側にも大きな曲輪があり、虎口も認められる。それら中心の曲輪群を画する空堀は規模が大きく、堀底道として利用された様子が窺える。

当城は永禄から天正年間初頭には、伊東氏家臣の福永丹波守が守っていた。伊東氏 48 塁の一つに数えられる。近世に入ると野尻は鹿児島（薩摩）藩の外城（郷）の一つとして、地頭が配された。

小林城跡（宮崎県小林市真方）【図 3】

小林市街地北東部に立地する。城域は「城山」と呼ばれる。

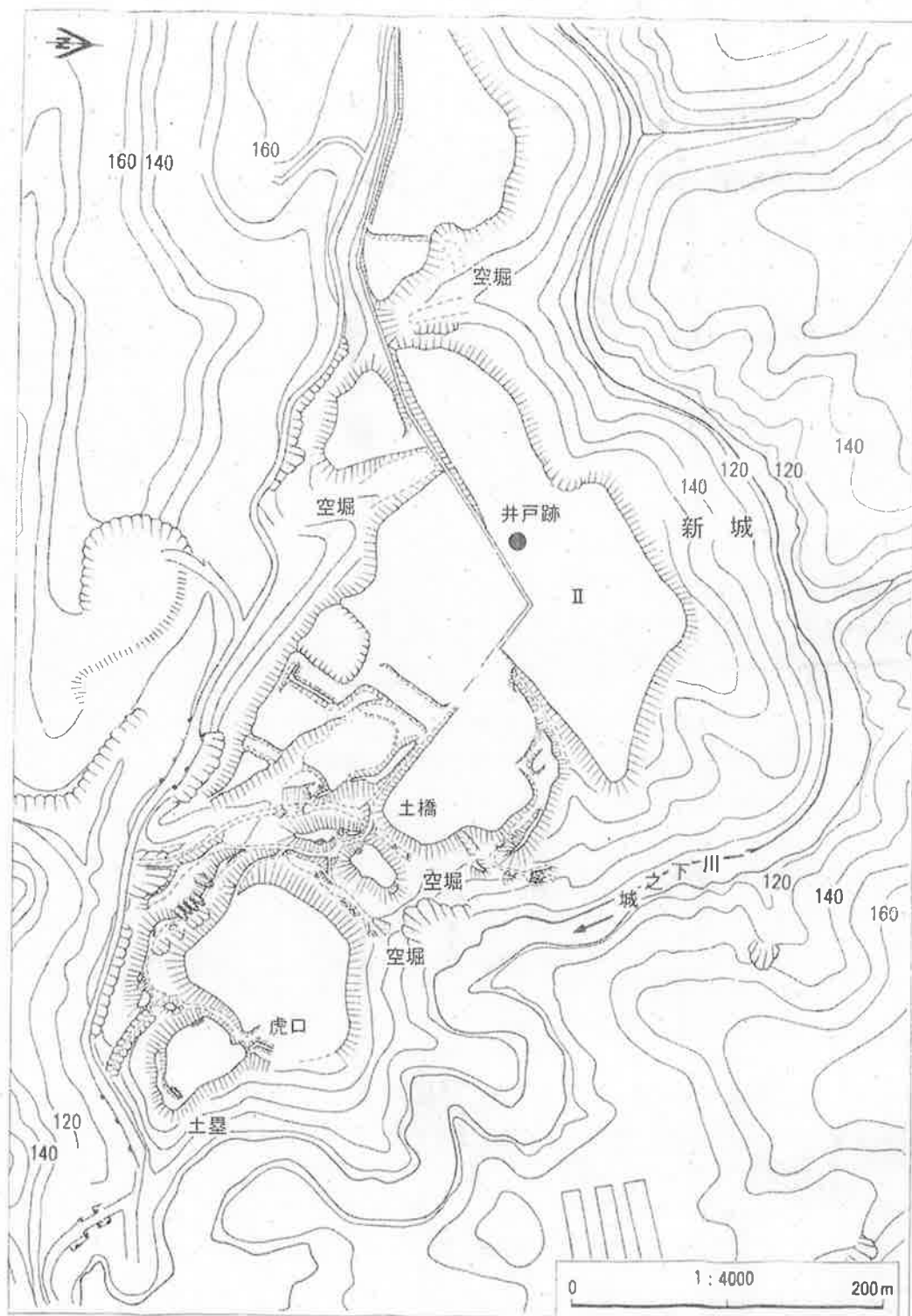
三方を曲流する小河川に囲まれており、南側にはかつて池があったという。城域は南北約 170 m、東西約 200 m を測る。

「三ッ山」「三之山」とも書く。北原氏が築城したとされ、永禄 4（1561）年には伊東義祐が攻略し、米良筑後守を配した。永禄 9 年、島津義久が当城を攻めるが、失敗している。伊東氏 48 塁の一つで、『日向記』の「分国城主揃事」によれば、城主は平良彦十郎であった。木崎原の合戦以後も伊東氏の勢力下にあったが、天正 4（1576）年に島津勢の高原城攻撃により、守将、伊東勘解由は城を明け渡している。

なお、『日向地誌』に挙げられている宇賀城は、当城と同一のものとする説もある（『史積調査』など）。

『宮崎県中近世上巻緊急分布調査報告書Ⅱ』より加筆

【図1】

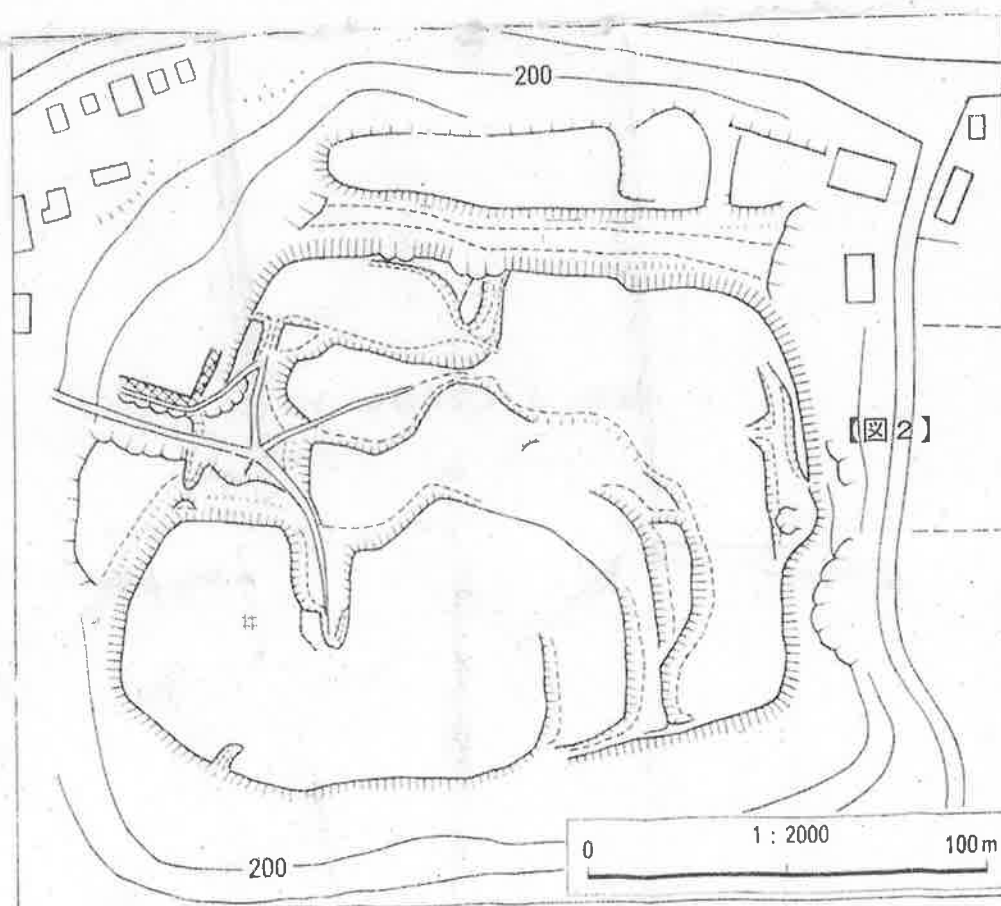


野尻城（新城）縄張り図（大学康宏原図加筆）

【図2】



【図3】



小林城縄張り図（北郷泰道原図作成）